2026 年 11 月 16 日

各 位

会 社 名　　株 式 会 社 ベ ー シ ッ ク
代 表 者 名　　代 表 取 締 役　秋 山　勝
（コード番号　５１９Ａ　グロース市場）
問合せ先　コーポレート部門長　清水　英次
電　　話　　０３－３２２１－０３１１

2026 年 12 月期 第３四半期決算に関する質疑応答（要旨）

当社の 2026 年 12 月期 第３四半期決算に関して、株主、投資家などの皆さまからいただいたご質問および当社の回答のうち、主なものを以下のとおりお知らせいたします。なお、ご理解いただきやすいよう、一部表現の変更や内容の加筆・修正を行っております。

記

Q1.

トライコーン社の株式を取得する狙いを簡潔にご説明ください。また、同社による業績への寄与についてもお聞かせください。

A1.

本株式取得の狙いは、大きく 3 点ございます。1 点目は、顧客基盤の拡大です。中堅・大手企業を中心に、当社単独では短期間での関係構築が難しい約 500 社の顧客基盤がグループに加わります。2 点目は、課題解決力の向上です。CRM 領域の製品・支援力が加わることで、これまで当社がご相談をいただきながらも対応しきれなかった、顧客データベースや CRM に関連する需要を獲得できるようになります。3 点目は、収益力の向上です。両社の既存顧客に対して相互に提案を行い、顧客 1 社当たりの売上拡大を目指してまいります。

業績面では、トライコーン社は売上高 10 億円を超える規模の事業を展開しており、連結により当社グループの業績の上積みが見込まれます。さらに、既存顧客へのクロスセル・アップセルを通じて、単純な足し合わせにとどまらない成長を目指してまいります。

Q2.

トライコーン社の株式取得により、どの程度ののれんが発生する見込みでしょうか。

A2.

のれんの金額は現在精査中であり、取得原価の配分が完了した段階で確定いたします。公表している取得価額と純資産の差額から、おおよその規模感はご推察いただけるものと存じますが、実際の金額は、無形資産への配分などによって変動する可能性がございます。償却期間とあわせて、確定次第お知らせいたします。

Q3.

生成 AI による影響がソリューション領域で想定以上だったとのことですが、今後、ferret One や formrun といったプロダクトにも同様の影響が及ぶのではないでしょうか。

A3.

単純な作成作業や一部の機能については、AI によって代替・コモディティ化する可能性があると認識しており、そのリスクを軽視してはおりません。一方で、生成 AI の普及に伴い、企業のプロダクトに対する考え方にも変化が生じております。AI を活用すれば自社でシステムを開発できるとの見方から、一時は「SaaS is dead」とも言われました。しかし実際には、自社でシステムを構築し、管理・保守し続けることのセキュリティ面や運用面でのリスクを認識される企業が増えております。コンテンツ制作は自社で代替してもこうしたリスクは生じにくい一方、業務の基盤となるプロダクトでは、これらのリスクが重要な判断要素となります。

当社として楽観視はしておりませんが、お客様に安心・安全・確実にご利用いただける環境を提供し続けることが、プロダクトの競争力の向上につながるものと考えております。

Q4.

上場時の初値から株価が 6 割強下落しております。AI が当社に与えるポジティブ・ネガティブ双方の影響の見通しや、来期以降の増益の見込みについて、補足してご説明ください。

A4.

株価が初値を大きく下回る水準で推移していることにつきましては、株主の皆さまにご心配をおかけしていることを真摯に受け止めております。

当社の上場は、生成 AI を活用した開発ツールの普及により「SaaS is dead」という言葉が広がり、グローバルに SaaS 企業の評価が大きく低下した時期と重なりました。株式市場の反応と当社のお客様の反応は必ずしも一致していないと考えておりますが、一方で、今回の業績予想の下方修正の要因となったコンテンツ制作については、AI による代替が可能であることが市場やお客様から示された期間でもあったと認識しております。こうした外部環境のもとで成長を掲げても、市場からの信頼を得るのは容易ではなく、それが現在の株価に表れているものと考えております。

その一方で、当社のプロダクトやサービスに価値を感じ、新規契約やアップセル・クロスセルのご提案を受け入れていただいているお客様は実際に数多くいらっしゃいます。

来期以降につきましては、ソリューション領域において事業のあり方を一部見直すべきと考えております。プロダクトについては引き続きご利用やご検討が進んでいることから、外部環境の変化やセキュリティへの要請も踏まえ、安心・安全・確実な運用環境を提供し、価値を届けられる形を構築してまいります。

具体的な業績の見通しにつきましては差し控えさせていただきますが、グロース市場に上場する企業として、引き続き二桁以上の成長を目指してまいります。

以上